

# 岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数/会員数 725 名 (2012.12.22 現在)

編 集 発 行/「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL : 090-2604-7918 FAX : 019-653-6447

郵便振替口座/ 02250-1-60580 E-mail / hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage (岩手ホスピスの会通信) / http://hospice.sakura.ne.jp/

No. 43  
2013年1月

## ～クリスマスにはタオル帽子～

寒さが厳しくなる中、治療に向き合うのは少し気分がめいるものです。

患者さんに、すこしでも笑顔になって頂きたいと院内でも、クリスマスコンサートや様々なイベントが企画されます。

私たちもその思いに変わりはなくお役にたてることでサポートさせていただきます。

全国のがん診療連携拠点病院にタオル帽子をプレゼントする企画は、今年で4年目を迎えます。申し込み件数は、例年程度なのですが要望枚数が50個から100個へと増えてきた病院が多く、今年のクリスマスは過去最高の「5,182個～!!」

みなさん、5,182個なんて想像できますか?? 帽子の山・山・山です。見慣れてはいる私たちも圧巻です。1日や2日で終わるような作業ではありませんでした。

全国から集まった帽子は、様々な方々が関わっています。

5個できれば郵便局のレターパックでコツコツと送ってくださる方、

被災地で震災支援へのお礼の気持ちを込めて作られている方、帽子を作るためのタオルやタオル帽子を提供していただきました「内野株式会社」、社会貢献のボランティアとして社員の方々に作って頂いた「東京海上日動あんしん生命」など、沢山の皆さまに紙面をお借りしまして御礼申し上げます。また、この事業は、「公益財団法人・いきいき岩手支援財団」の助成を受けて実施されるもので深くお礼申し上げます。



### ● タオル帽子クリスマスプレゼントを受け取って頂いた病院一覧 ●

2012年12月（1件50個程度）病院86件総数5,182個

岩手県：岩手県立中部病院、岩手県立中央病院、岩手医科大学附属病院、岩手県立二戸病院、孝仁病院 青森県：青森県立中央病院、青森労災病院、下北医療センターむつ総合病院、三沢市立病院 宮城県：大崎市民病院、東北労災病院、石巻赤十字病院、仙台医療センター 山形県：公立置賜総合病院 福島県：坪井病院 茨城県：茨城西南医療センター 群馬県：伊勢佐木市民病院 千葉県：千葉県がんセンター、国保松戸市立病院、君津中央病院、東京慈恵会医科大学附属柏病院 東京都：NTT 東日本関東病院、東京女子医科大学病院、武蔵野赤十字病院 神奈川県：相模原協同病院 新潟県：新潟県立がんセンター、済生会新潟第二病院 長野県：長野市民病院 石川県：金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、石川県立中央病院 静岡県：浜松医科大学医学部附属病院、沼津市立病院、静岡こども病院 愛知県：愛知県がんセンター中央病院、名古屋医療センター、安城更生病院 岐阜県：岐阜大学医学部附属病院、大垣市民病院、岐阜県総合医療センター 三重県：三重大学医学部附属病院 滋賀県：私立長浜病院 京都府：京都大学医学部附属病院 兵庫県：兵庫県医科大学病院、兵庫県立柏原病院、関西労災病院、兵庫県立淡路病院、姫路医療センター、神戸医療センター 鳥取県：鳥取市立病院 岡山県：米子医療センター 広島県：広島大学病院、広島市民病院、安佐市民病院、福山市民病院 山口県：山口赤十字病院 愛媛県：愛媛県立中央病院 高知県：高知大学医学部附属病院 福岡県：産業医科大学病院、久留米大学病院、九州厚生年金病院、社会保険田川病院、福岡東医療センター 長崎県：日本赤十字社長崎病院 佐賀県：佐賀県立病院好生館 熊本県：熊本赤十字病院、熊本大学医学部附属病院、済生会熊本病院、熊本労災病院、荒尾市民病院 大分県：大分大学医学部附属病院、大分県済生会日田病院 宮崎県：宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、都城病院 鹿児島県：鹿児島県立薩南病院、済生会川内病院 沖縄県：那覇市立病院

# 各地からのタオル帽子活動レポート②

ミシガン州タオル帽子講習会 アメリカ合衆国ミシガン州ノバイ市在住 藤田 トシ



協力者のMさんが縫い方を説明しています

ミシガン州のノバイ市で第一回のタオル帽子作製会が行われました。ノバイ市にある病院のがんセンターが場所を提供くださり、デトロイト近郊に住む女性達のウイメンズグループのご協力でニュースレターにタオル帽子会の記事を記載し、参加を募っていただきました。長い夏休みが終わって学校が始まったばかりですし、短期滞在日本人の多い当地では何人が参加して下さるのか見当も付きませんでした。皆様に協力いただき、当日は11人が参加していただきました。またこれからも口コミで広がっていきましようと思われました。

この会の始まる2日前に日本人の方から、ウイメンズクラブのニュースレターでこの会を知りましたと電話がありました。帽子作製に参加の電話かと思いましたが、この方のキモセラピー（抗がん剤治療）が始まるので、タオル帽子を頂けたらと言う電話でした。初めてのリクエストが日本人の方と言



白い帽子

うのも驚きでしたが、早速とどけました。異国にてこのようなボランティアがあっで心強い、嬉しいとお

しゃってくださいました。上記の帽子は白地のタオル、これは病院からの寄付です。白はどうかと思いましたが、まずアメリカは白はどちらかと言うと正義の味方の色です。西部劇映画（古い言葉？）をご覧になると、勝ち組は白いカウボーイハットで白い馬で登場し、悪者達をバツバツと撃ち殺すシーンがあります。案外白もそしてまあ寄付してくださるなら、白でも黒でも何でも使えるよう工夫したいと思いました。それに参加した方々から病院のタオルはあまり柔らかくないので、参加時に縫い方を覚えていただくタオルとして使って、購入したタオルを患者さんに使っていただく事はどうかとアドバイスいただきました。急遽その案をいただきました。アメリカ人（日本人3世2人含む）の方達の中には癌の治療が終わった方々もおり、色々患者さん側のお話も伺え、ボランティア側の思いよがりや自己満足でない、患者さんの立場に立ったお手伝い出来るのではないかと思います。他にも当日はスケジュールが決まっているので参加できませんが、編み物やクラフト同好会のようなグループでお手伝いできると嬉しい連絡もありました。



この写真の方は96才の友人です。日本の東北震災後に仮設住宅の方々に使っていたくよう、**岩手タオル帽子**

**会の方達がボランティアワークをしている事を話しました。**彼女も寝室や家の中で使いたいとおっしゃってくださいました。やはりそんな方々の笑顔が何よりですね。

あなたの笑顔が見たくって!と言う心境でポチポチ針を動かしていきたいと思っております。

# 岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2012年10月~12月)



当会のタオル帽子を受け取った全国の皆さんから当会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで35,982個に上っています。帽子を作るボランティアの皆さんに深く感謝申し上げます。

◆このたびはタオル地の気持ちのよい帽子をいただき、ありがとうございます。平成20年に乳がんになり骨転移、肝転移で2度目の抗がん剤です。わかっていても入浴のたびに抜けていく髪が…。50歳になっても涙がこぼれます。「もう使わないように…老後のために」ととっておいたかつらやつけ毛、帽子がこんなに早く押入れから出すとは…。私の持っている帽子は毛糸だったり、バンダナの生地だったり…タオル地がこんなにも気持ちよいものと、本当にありがとうございました。皆様のあたたかい行動に心より感謝いたします。いつか作る側に…。  
(茨城県笠間市)



◆こんにちは。このたびはありがとうございます。一針一針の優しいお心を受け取りました。タオルの帽子は“あったか・ふ～んわり”いつも春の陽だまりのような気持ちになります。私はがんになっていろんな思いをしたけれどその倍以上の幸せをもらっています。皆様も幸せをいっぱい広げる活動を、これからもがんばってくださいね。  
(大分県大分市)

◆先日、看護師さんより素敵なたオル帽子をいただきありがとうございました。やわらかく色も好みで心地よく使っております。私は夏に乳がんになり現在抗がん剤治療中で、脱毛にはとても驚きましたが、この帽子に救われました。私も真似して作りましたが、小さくなったり、うまくいきません。皆様の作られた帽子が一番気に入っています。  
(山形県山形市)

◆病院でとてもかわいいタオルで作ったケア帽子をいただきました。が…家に持ち帰ると、「これお風呂上がりにイイネ」と、子供に持っていかれてしまいました。我が家では大人気です。ありがとうございました。私も自分のため、家族や支えてくれている人のためにこれからも治療頑張ります。  
(愛媛県松山市)

## 「岩手ホスピスの会」がん相談ホットライン



開設日	毎月第2土曜日 午後1時30分~4時(月により変更あり) 相談無料
場所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子倶楽部会場(月により変更あり)
内容	電話相談:がん全般についての相談に対応致します。 直接面談:上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	<b>岩手ホスピスの会 090-2604-7918</b>

# 「シャポーIWATE」プロジェクトレポート②

(タオル帽子被災地支援共同プロジェクト)



せんべい汁等を食べていただきました。

10月27日、第4回目のシャポー岩手プロジェクトを陸前高田市上壺公民館で開催しました。東日本大震災からもうすぐ2年が過ぎようとしています。津波で家族を流された沿岸部に住んでいた多くの方々。原発被災で県外に難民となって逃れた16万人の方々。

みなさんにとって震災以降の日々は、いかにつらい2年間だったかと思われます。「復興」「絆」…。国や政府は耳触りのよいことばかり言って、これまで一体どれだけのことをしてくれたのでしょうか。この2年間、私たちホスピスの会もそれぞれ仕事の傍ら、できる限り被災地に出向き、ささやかながら一生懸命支援してきましたが、結局のところ被災した方々自身が自力で立ち上がって行くことが大切、ということを知った気がします。

「被災した方たちに、自ら生きる希望を持ってもらいたい」その願いに今回ひとつ花が咲きました。自ら皆でタオル帽子を作って、必要とするがん患者さんに届けたい!というグループが現れたのです。

鈴木トヨ子さんをリーダーとする陸前高田市壺の沢地区10人の方たちです。皆で、炊き出しをしたお礼に、と元気な体操を披露してくれました。

被災地に咲いた小さな小さな花ですが、大輪になることを願い、これからも被災地の方たちに寄り添った活動を続けて行きたいと思えます。



同ボラセンにて(2011.7.30)

## 陸前高田市災害ボランティアセンターが閉所しました

2年前の大震災以降、同市にボランティアに行く際は必ずお世話になってきた災害ボランティアセンターが、2012.12.23で閉所になりました。岩手県内の被災地で唯一運営を続け、これまで延べ13万人のボランティアを受け入れてきたそうです。スタッフの皆さん本当にお世話になりました。ありがとうございました。センターがなくなっても私たちはボランティア活動を続けたいと思えます。

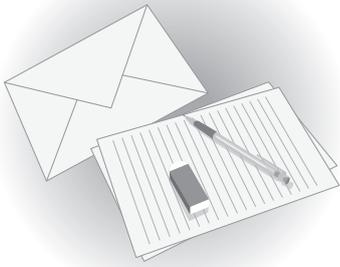
## 「タオル帽子活動が社会ボランティア賞を受賞」

公益法人・国際ソロプチミスト日本財団から、当会の吉島美樹子事務局長に、2012年度「社会ボランティア賞」がおくられ、11月に札幌で授賞式が行われ参加しました。

同賞は、地域密着型のボランティアを継続的に行っている個人や団体に贈られ、4年前から取り組んでいる、がん患者さんへむけたタオル帽子活動が大きく評価されたものです。吉島事務局長は受賞の喜びを「ボランティア活動は一人でもできるものでもなく一日で成果がでるものでもありません。ご協力いただく多くの方々の代表者として受賞したもので、みんなで喜びたいと思えます。これを励みに活動がより一層広がることを願います」と語りました。



吉島事務局長とタオル帽子タペストリー



## ホスピスからの便り ⑩～

美山病院 緩和ケア病棟 看護師長 佐藤 裕子

二度目の病棟便りになります。今回は病棟の様子をお伝えいたします。

当病棟は家（自宅）にいるときのように過ごしていただきたいという思いで、その雰囲気大切にしています。その一つとして職員のユニホームは白衣ではなく、ポロシャツ風の上着とズボン、それぞれ何種類か色があり選んで着用しています。部屋の中も備え付けの家具は固定のものではないのでベッドも含め自由に位置を変えることができますので患者さま、ご家族で使いやすいように、その人らしくお使いいただいています。

食事においても、その思いから、温冷配膳車で届いたら温冷用お盆から普通のお盆に移し変えて患者さまのところへ、お出ししております。

外の風を運んで来てくれるボランティアの方々、自宅の庭に咲いている花を持ち寄り花瓶へと生けていかれます。庭先の見慣れた花なのですが風情有あり、話しもはずみ患者さま、ご家族にとっても好評です。また、慰問でいらっしゃる方々はピアノ、笛、ギター、歌の演奏やフラダンス



ふれあいホールに設置した「こたつコーナー」

と多種多彩となっております。心なごむ、癒しの時間でもあります。

栄養科では行事に合わせたおやつやドリンクサービス（野菜ジュース、カクテルなど）の提供があります。朝のカンファレンスから始まり、患者さまのところに顔をだし食事の管理をしています。

リハビリ科も朝のカンファレンスに参加、それぞれ患者さまの状態に合わせた関わりをしています。干し柿づくりや編み物でクリスマスツリーの飾りを作ったりもしました。

新しい活動として動きのある空間を創ろうと栄養科、リハビリ科と一緒に企画をし、ふれあいホールにこたつコーナーを設けました。そこで、お茶を飲みながら干し柿をいただくことができました。また、おやつ作りでは「げんべだ」を作りなつかしさを感じながら味わえました。

患者さまが気分転換にふっと部屋をでたときいつもと違った空間があり、立ち寄れる、そんな動きのある雰囲気づくりをこれからも続けていきたいと思っています。



食事は普通のお盆に移し替えて患者さまへ

社団医療法人敬愛会 美山病院緩和ケア病棟：岩手県奥州市水沢区羽田町字水無沢 495-2  
電話 0197-24-2141 ☆緩和ケア病床 20 床／総病床 248 床 緩和ケア病棟開設：2011 年 4 月

# 栄養講座レシピ **がん患者さんのための栄養講座** パート 11

岩手県立二戸病院 緩和ケアチーム 管理栄養士 **蛇口 真理子**

新年を迎えましたが皆様はいかがお過ごしですか？ 今年も雪も多く、厳しい冬になりそうですね。寒い日は買い物に出るのも大変です。そこで、今回は胃がん手術後の退院直後から家で安心して食べられ、家によくある材料で作れる1品を紹介します。



## ポテトとさけ缶の重ね蒸し

エネルギー 1人分 190 kcal

材 料	分量(2人分)
じゃが芋	中1個
さけ缶(水煮)	100g
トマト	40g
玉ねぎ	40g
サラダ油	1g
塩	50g
チーズ	20g

### 作り方

- ①じゃが芋は5mm程度の厚さに輪切りにして水にさらす。トマトは皮を剥いてざく切り、玉ねぎは薄切り。
  - ②厚手の鍋にサラダ油を薄く塗り、①と鮭缶の順に重ね、塩をふる。紙蓋と鍋蓋をしてじゃが芋が柔らかくなるまで火にかけて蒸し焼きにする。  
器に盛り、チーズをトッピングして完成。
- ※美味しくできるポイント  
②の時にさけ缶の水煮の汁も少々加えると、さけのだしが出て、さらに美味しくなります。

チーズが苦手な方は、チーズを乗せなくても充分においしいです。寒い冬に体があたたまるおかずです。



## 《胃がん術後の退院後の食事アドバイス》

### ①術後は消化力が落ちていることに注意しよう

術後は食べるペースがつかめず不安になりますが1年もたてば次第に食事が出来るようになるでしょう。ただ、消化力は落ちているのでよく噛む習慣をつけましょう。

### ②食べたいものを少しずつ

術後は胃の働きが弱くなっているため細かく噛み砕くかゆ状だと胃に負担が少ないです。1人分の半量程度から食べはじめつかえ感、もたれ感がなければ大丈夫。少しずつ体調に合わせて自分のペースに戻しましょう。

1回の食事量が少なくなるので、おやつ(クッキーやパン・チーズなど)を食べると体力が落ちにくくなります。

参考資料 胃を切った人 友の会 アルファ・クラブ

# 第13・14回岩手県がん対策推進協議会参加レポート

## ■ 11月21日 第13回岩手県がん対策推進協議会

今回は、同推進協議会事務局より、年度内の策定を目指す今後5カ年の計画「岩手県がん対策推進計画」(2013～17年度)の素案が示されました。

新たな項目として、がん患者の就労問題、小児がん対策なども素案に盛り込まれました。

計画は、がん患者を含めた県民の視点に立ったがん対策の実施などを基本方針とすることになっています。

重点的に取り組むべき事項として、◎がんの予防と早期発見◎がん医療の充実◎がんと診断されたときからの緩和ケアの推進◎相談支援・情報提供の充実◎がん登録の推進◎働く世代や小児へのがん対策の充実一があげられました。

また、患者・家族会の「がん対策推進計画に対する」意見を求められ、岩手ホスピスの会では、◎より患者にとって緩和ケアチームが利用しやすい体制を整えてほしい◎がん末期の患者さんに直接寄り添う立場であるコメディカルスタッフや訪問看護師、ホームヘルパー、ケアマネージャーらにも緩和ケア基本研修を行ってほ



しい◎福島第一原発事故による大気中への放射能の拡散の影響に対応するため、この問題を今後の岩手県がん対策推進計画の一環として位置付け、岩手県民一体となって私たちの子孫を守るという立場に立って子供たちの健康状態についての現状調査、予防、治療、放射能からの庇護について取り組みを進めてほしいと訴えました。

がん患者と家族の会かたくりの会からは、「がん対策推進条例を制定してほしい」との意見が出されました。

## ■ 12月18日 第14回岩手県がん対策推進協議会

各施策の目標値が示され、以下の通りパブリックコメントを実施することになりました。

### 次期がん対策推進計画パブリックコメントの実施

岩手県では、次期「がん対策推進計画(平成25年度～平成29年度)」の本年度中の策定に向けてパブリックコメントを実施し、その計画(中間案)について、広く県民から意見等を募集するそうです。計画(中間案)全文とその概要は、県のホームページ <http://www.pref.iwate.jp/> または、県庁及び合同庁舎(盛岡市内丸)の行政情報センターで閲覧できるそうです。

○パブリックコメント実施期間：**平成24年12月27日(木)から平成25年1月25日(金)まで**

○届出方法及び提出先(予定 ※保健医療計画の実施と併せて行うため変更となる場合があります)

(1) 郵便による場合：〒020-8570(住所記載不要) 岩手県保健福祉部医療推進課

(2) ファクシミリによる場合：019-629-5416

(3) 電子メールによる場合：AD0002@pref.iwate.jp

《問い合わせ先》

○がん医療について 県保健福祉部医療推進課(地域医療推進担当) 電話 019-629-5416

○がんの予防・早期発見について 県保健福祉部健康推進課(健康予防担当) 電話 019-629-5468

## 岩手県盛岡市・ホスピス（緩和ケア病棟）入院待機待ち状況

岩手県がん対策推進協議会で、最近盛岡市のホスピス（緩和ケア病棟）が満床状態だということが出たので、電話でお聞きした結果です。（2012.12 現在）

- ①岩手県盛岡市孝仁病院緩和ケア病棟（019-656-2888）：  
病床数：10床 入院平均待機者人数：22～24人 平均待機期間：1～2か月
- ②岩手県盛岡市盛岡赤十字病院緩和ケア病棟（019-637-3111）：  
病床数：22床 入院平均待機者人数：0人 平均待機期間：なし

## がん患者・家族会学習会・情報交換会レポート

11月25日、岩手県保健福祉部医療推進課主催の同会議が盛岡市で開催されました。

学習会では千葉県の在宅ケア市民ネットワークピュア代表・藤田敦子さんが、「地域で支える～がん患者と家族が明日を生きるために～」と題して講演し、聴衆から「この会の参加者だけで聞くのがもったいないと思った。大変参考になりス

ライドも見やすかった」との感想がたくさんありました。その後の情報交換会では当会から伊藤よし子副代表と菊池利子役員、佐々木弥生役員が参加し、県内11の患者会・患者サロンとともにそれぞれの活動について報告しました。

患者会の高齢化、若い人たちが入って来ない、などの悩みが語られました。

## 提出した要望書について岩手県からの回答

9月28日に開催された第12回がん対策推進協議会で、県内の7がん患者団体を代表して、  
◎県南地域の子供たちへの甲状腺検査の要望◎尿中放射性物質サンプリング調査で放射性物質が検出された子供の詳細調査—を要望した件につきまして、12月18日に岩手県保健福祉部医療推進課感染症担当課長様よりご回答をいただきました。

1. 今年4月に行われた福島県民健康管理調査において4割前後の子供たちの甲状腺にのう胞が見られたことから、政府は青森県、山梨県、長崎県において福島県の調査と同じ基準で甲状腺超音波検査を実施しており、来年3月までに疫学的に比較して公表されるので、その結果を見て対応を検討する
2. 県では昨年度実施した放射線内部被ばく健康影響調査の対象者への継続調査を現在行っており、その結果を改めて有識者会議で評価してもらうことになっている—ということです。

## 佐藤聡美さんの訃報

一昨年度の総会記念講演で自らのがん体験をお話しいただき、リレーフォーライフに参加しながら闘病していた佐藤聡美さんの訃報が、10月に突然届きました。闘病しながらのさまざまな思いもつづっていただきました。急な知らせに多くの方が深い悲しみに包まれています。しかし、聡美さんの生き方から私たちは多くのことを学びました。そのことを次につなげる活動に取り組みます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



# 岩手県南の子供たちの甲状腺検査実施を求める要望書提出

11月21日、岩手ホスピスの会としては今年3度目の、放射能問題について県への要望書提出を行いました。今回は「三陸の海を放射能から守る岩手の会」の永田文夫先生から提案を受け、県内6がん患者会のほか、子どもたちの未来を考えよう平泉の会、里山生活学校(奥州市)、六ヶ所村ラブソディー岩手県南・宮城県北上映者の会や、県内外の23団体(岩手県保険医協会、盛岡医療生活協同組合、岩手県反核医師・歯科医師の会、岩手県原爆被害者団体協議会、核燃サイクル阻止一万人訴訟原告団(青森県)、放射能を拡散させない市民有志の会(秋田県横手市)…との連名で、◎県南の18歳以下の子供たちの甲状腺検査を実施すること◎その結果をもとに岩手県「放射線内部被ばく健康影響調査有識者会議」を再度開催し判断を求めること—などを要望しました。



子供さんも要望書提出に参加

(詳細は12P新聞記事参照)

## “がん”を知るフォーラム inいちのせき 2013

講演：柳田邦男先生 **「豊かな生と死を考える」**

主催：一関在宅緩和支援ネットワーク(IZAK)

日時：2013年2月9日(土) 13:30~16:00

場所：一関文化センター(岩手県一関市大手町2-16)

参加料：無料 問い合わせ：一関在宅緩和ネットワーク(IZAK)事務局 吉田

電話：0191-23-3452 FAX：0191-21-3990

## 盛岡市民のための在宅医療フォーラム

**「大切な人を看取る幸せ大切な人に看取られる幸せ」**

第1部 基調講演「命のバトンを次世代に~在宅看取りの現場から~」

第2部 パネルディスカッション

主催・問い合わせ：在宅医療連携拠点事業所チームもりおか 電話：019-681-7653

日時：2013年3月2日(土) 11:30~16:30

場所：都南文化会館キャラホール

長野県松本市長・医学博士(甲状腺専門) 菅谷昭先生市民公開講演会

**「放射線被曝から身を守るには」**

—基礎知識とチェルノブイリ事故後の最新情報—

共催：岩手県保険医協会女性部、岩手県反核医師歯科医師の会

日時：2013年3月9日(土) 14:00~16:00(開場13:30)

場所：岩手県公会堂(盛岡市内丸)〈先着800名〉託児あり〈要予約〉

入場料：無料 連絡先：019-651-7341(岩手県保険医協会)



# 岩手ホスピスの会総会記念講演会

2013年2月16日(土) 14:00~15:00

## — 永遠の<sup>いのち</sup>今を生きる② — おおた せんしょう 太田宣承講演会

〈真宗大谷派碧祥寺副住職、特養ホーム光寿苑副苑長〉

大谷大学大学院修士課程修了、平成11年4月より現職。真宗大谷派碧祥寺の副住職としても活動している。「もしあなただったら、どこで、どんな風に目を落としたいか」をテーマに、講演とワークショップを行います。



### — 自身の死生観を見つめてみよう —

- あなたなら、どこで、誰の傍で、どんな風に目を落としたいですか
- あなたの大切な人との別れの中で、生まれたものは何ですか

### 太田宣承さんの主な活動

- 西和賀ふくし友の会(子供による寺子屋事業等)
- 湯田沢内若者による地域を考える会(町の活性化事業への参画、つながりの場)
- 西和賀まちづくり基本条例を開く会(まちづくり講演会や住民とのしゃべり場等開催)
- 被災地支援・チームにしわが協議会(東日本大震災被災地支援活動)



場 所：盛岡市紺屋町 2-9 盛岡市勤労福祉会館 5F 大ホール  
 入場無料 問合せ：岩手ホスピスの会(TEL：090-2604-7918)

## 岩手県内各病院における緩和ケアチーム利用の際の窓口は？

病 院 名	代表電話	担 当
岩手医科大学附属病院	019-651-5111	直通 019-651-5677 がん患者支援情報室
県立中央病院	019-653-1151	(内線 2118) 医療なんでも相談
盛岡赤十字病院	019-637-3111	(内線 338) 緩和ケア相談室
盛岡友愛病院	019-638-2222	医療相談室
県立中部病院	0197-71-1511	がん相談支援室
財団法人総合花巻病院	0198-23-3311	
県立胆沢病院	0197-24-4121	(内線 1066) がん相談支援室
県立磐井病院	0191-23-3452	(内線 2105) がん相談窓口
一関病院	0191-23-2050	医療相談室
県立千厩病院	0191-53-2101	
県立大船渡病院	0192-26-1111	地域がん相談支援センター
県立釜石病院	0193-25-2011	(内線 3010) 外科外来
県立宮古病院	0193-62-4011	(内線 2130) 緩和ケア相談室
県立久慈病院	0194-53-6131	がん相談支援室
県立二戸病院	0195-23-2191	カシオペアがんなんでも相談室

※緩和ケアチーム：がんの早期から痛みを取る専門チーム。患者さんご家族からの要請で稼働しますので、痛みがあれば積極的に利用しましょう！

# タオル帽子を作りたい方へ



※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。

※型紙・見本の帽子1個(送料込み1,000円)

※申し込み方法:はがきかメールでお願いします。メールアドレス: [hospice@eins.rnac.ne.jp](mailto:hospice@eins.rnac.ne.jp)

はがき:〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31川守田方「岩手ホスピスの会」

## これからのタオル帽子講習会日程

1月12日:タオル帽子講習会・倶楽部

2月9日:タオル帽子講習会・倶楽部

3月9日:タオル帽子講習会・倶楽部

4月13日:タオル帽子講習会・倶楽部

※場所:盛岡市総合福祉センター 開催時間:13時30分~ 問い合わせ先:080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願います。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

# \*\*\*\*\* 岩手ホスピスの会活動日誌 \*\*\*\*\*

2012年10月~12月

- 10月6・7日 タオル帽子チャリティーバザー  
.....(滝沢村土日ジャンボ市、8名)
- 10月10日 物資仕分け作業 .....(盛岡市タオル帽子倉庫、8名)
- 10月13日 タオル帽子倶楽部 ... (盛岡市総合福祉センター、14名)
- 10月14日 物資仕分け作業 .....(タオル帽子倉庫、9名)
- 10月17日 第4回在宅ケアワーキング委員会参加  
.....(盛岡市アイーナ、1名)
- 10月26~27日 がん治療学会参加.....(パシフィック横浜、1名)
- 10月27日 タオル帽子被災地支援共同プロジェクト .....(陸前高田市上壺公民館、40名)
- 10月28日 物資仕分け作業 .....(タオル帽子倉庫、8名)
- 11月3日 物資仕分け作業 .....(タオル帽子倉庫、5名)  
タオル帽子チャリティーバザー .....(土日ジャンボ市、5名)
- 11月4日 物資仕分け作業 .....(タオル帽子倉庫、9名)
- 11月10日 タオル帽子講習会&倶楽部・あんしん生命タオル帽子寄贈式・  
クリスマスタオル帽子発送作業 .....(総合福祉センター、27名)
- 11月21日 県へ甲状腺検査の実施要望 .....(県庁、1名)  
第13回がん対策推進協議会参加 .....(県水産会館、1名)
- 11月22日 タオル帽子ボランティア .....(岩手医大患者家族サロン、3名)
- 11月23日 物資仕分け作業 .....(タオル帽子倉庫、4名)
- 11月24日 クリスマスタオル帽子発送作業 .....(総合福祉センター、27名)
- 11月25日 がん患者・家族会学習会・情報交換会参加  
.....(盛岡市エスポワールいわて、3名)
- 12月1日 物資仕分け作業 .....(タオル帽子倉庫、7名)
- 12月8日 タオル帽子倶楽部 .....(総合福祉センター、17名)
- 12月9日 物資仕分け作業 .....(タオル帽子倉庫、8名)
- 12月12日 第5回在宅ケアワーキング委員会参加  
.....(アイーナ、1名)
- 12月18日 第14回がん対策推進協議会参加  
.....(エスポワールいわて、1名)
- 12月22日 役員会 .....(総合福祉センター、10名)
- 12月23日 物資仕分け作業 .....(タオル帽子倉庫、7名)



物資仕分け作業



11月3日 タオル帽子チャリティーバザー

# 新年度会費の納入をお願いいたします。

岩手ホスピスの会は皆さんの会費により運営されております。2013 年度会費 (2013 年 1 月～2013 年 12 月分) を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上振込をお願いいたします。なお、行き違いですでお支払いいただいております折は、なにとぞご容赦ください。また、ご住所の変更があった方はお手数ですがご連絡をお願いします。

会費：1,000 円 (複数口可) 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会

## 甲状腺検査の実施を がん患者団体など県に要望

福島第一原発の事故で放射線の影響を受け、三陸の海を放射能から守る岩手の会 (永田文夫世話人・盛岡市) や岩手ホスピスの会 (川守田裕司代表・同市) なきつ団体 (県外 2 団体を含む) は 21 日、県に対し、奥南 3 市町 (一関市、平泉町、奥州市) の子どもたちの甲状腺検査実施を求め、要望書を提出した。団体の代表 10 人が県庁を訪ね、子どもたちの未来を考えた平泉の会 (遠藤セツ子代表・平泉町) 会員の千葉勝子さん (70) が、要望団体を代表し、県医療推進課の野原勝彦課長に要望書を手渡した。

主な要望内容は▽放射線の汚染状況重点調査地域の奥南 3 市町で 18 歳以下の子どもたちの甲状腺検査を実施すること▽調査結果をフライバシーに留意した上で公開し、甲状腺の状態によりさらに詳細な継続検査を行うこと

永田世話人は、福島県が今年度、18 歳未満の子どもたち約 4 万 2 千人を対象に実施した甲状腺検査で、43・7% から、のう胞や結節が見つかったとのデータを示し「放射性ヨウ素は半減期が 8 日間と短いだけに、事故当時受けた甲状腺への影響が分からない。子どもと検査することで、子どもたちの安全、安心を保障してほしい」と訴えた。

野原課長は「国も福島県と他県との比較調査を進めている。国の調査も注視した上で、検査が子どもたちの健康を守る上で、有益なものか慎重に考えなければならぬ」と述べ、後日、文書で回答するとした。

## 縫い針に思い込め

### がん患者の帽子作り

竹駒町

陸前高田市竹駒町上壱地区にある壱の沢公民館で 25 日、同地域の住民およそ 20 人が集まり、全国のがん患者へ贈るための「タオル帽子」作りを行った。住民たちはさまざまな柄のタオルから帽子の型を抜き、「誰かに喜んでほしい」と思い込めた。針に思いを込めた。活動の主体となつてるのは、盛岡市の岩手ホスピスの会が震災後、被災地の仮設住宅などに訪れ開始した「シャポー I W A T E」プロジェクト。各地で炊きたしや物資提供の支援を行うと共に、同会の活動でもあった帽子作りの講習会を行い、住民たちの生きがいにつなげた。



3 回の講習会を終え、設在住の菊池裕子さん (右) がまごめ役となつており、現在は上壱仮設住宅で活動中。

プロジェクトを引継いでいる。今回は 100 個制作を目標とし、住民同士で楽しく会話しながら同会から送られたタオルに糸を通していった。

菊池さんは「私の母親もがん患者なので、他人事ではないと思いついて参加している。届いた患者さんからお礼の手紙がうれしくて、がんばろうという気持ちになれます」と、見つけた目標に向かって作業に取りかかっていた。

タオル帽子を制作した上壱地区の住民たち 壱の沢公民館



野原勝彦医療推進課長に要望書を手渡す千葉勝子さん (右)

2012.11.22 盛岡タイムス

2012.11.29 東海新報